

先日、2月14日から未明にかけて降った雪は、2月15日朝で積雪56センチ（相模原消防署本署）を記録し、相模原市中央区では46年ぶりの積雪となりました。奇しくもその46年前、1968年の積雪も2月15日で、53センチという記録が残っています。さて今回は、外にまだ雪が残っているため、ミニ観察会も館内で実施します。テレビや新聞にはすでに招かざる春の使者、スギ花粉の飛散予報が出る季節となりました。その花粉、スギの木立から煙のように舞い上がるのを見たことがある人は多いと思いますが、実際にアレルゲンとなるその“つぶ”はどんな形をしているのか、観察してみましよう。



スギの花粉が風に舞う

## 風に乗る小さなつぶ

私たちを悩ますスギ花粉は、ボール形で、リンゴのへたのような突起が出ています。最盛期には自動車のフロントガラスにうっすらと積もっているのも見られますが、顕微鏡でのぞくとこんな形をしているんですね。ところで、スギの雄花は写真のようなものです。雌花は松ぼっくりを小さくしたような形をしていて、花びらもなく、あまり花らしくありません。これは、目立つきれいな花が虫などを誘い、蜜を与える代わりに花粉を虫に運ばせるしくみを持つ花（虫媒花）との大きな違いです。つまり、風に花粉を運ばせるために軽い微粒子状になった花粉を持つ花（風媒花）が、花粉症の原因植物となるのです。



スギの花粉（大きさは約30ミクロン）

## 原因植物じゃないのに・・・冤罪植物

ところで、むかしから花粉症の原因と言われ続けている植物があります。それは、セイタカアワダチソウです。この植物は北アメリカ原産の外来植物で、1960年代後半から目立ちはじめ、あっという間に河原や空地、埋立などを席卷したため、あらぬ冤罪をかけられてしまったようです。しかし、この植物は在来のアキノキリンソウに近いなかまで、れっきとした虫媒花です。風で花粉が飛ぶこともないので、花粉症の原因にはなりません。かわりに、同じく外来植物のオオブタクサやブタクサは風媒花なので、アレルゲンとなります。



スギの雄花

次回のお知らせ

ミニ観察会：3月22日（土）12時から  
新聞No.36も観察会にあわせて発行します。



花の拡大



セイタカアワダチソウ